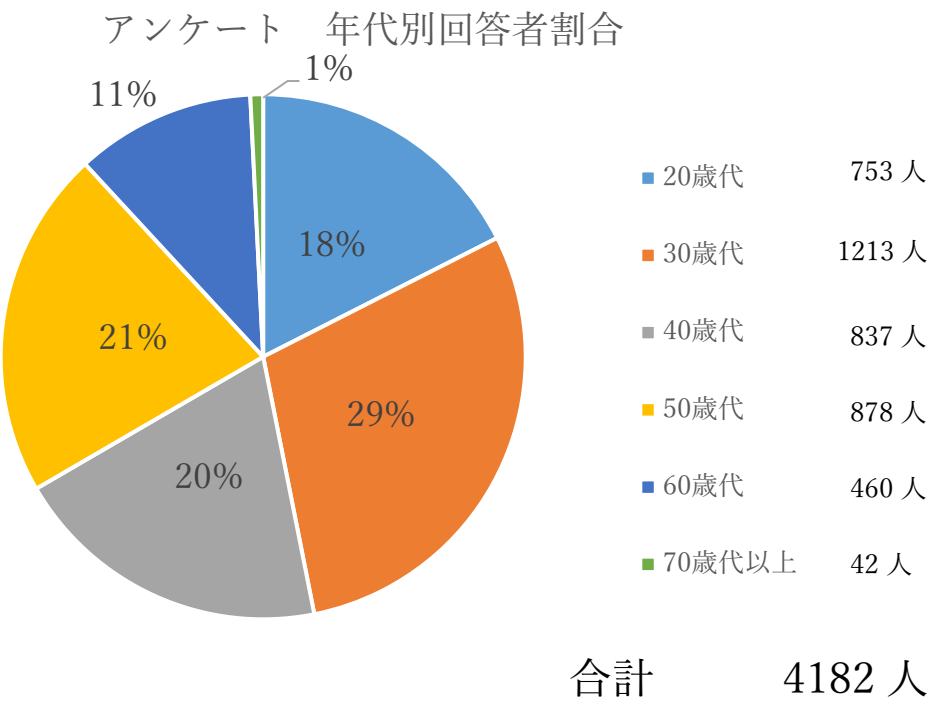


学校における働き方に関するアンケート
中間取りまとめ

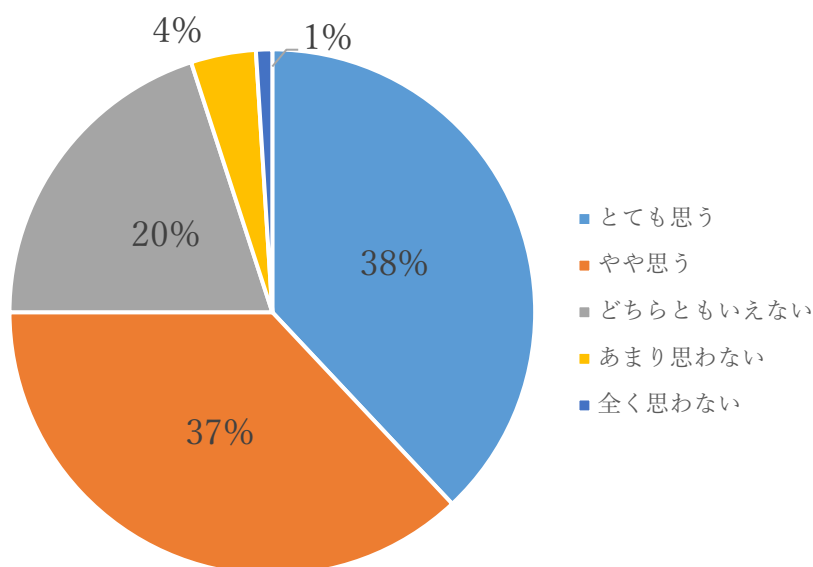
令和 7 年 1 1 月 1 0 日現在

(いいネットならアカウント 教職員用・学校用フォームより)

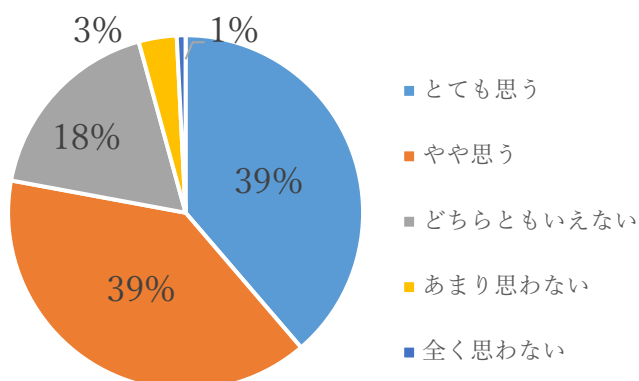


質問項目 6 教職員として、奈良県で働き続けたいと思っていますか

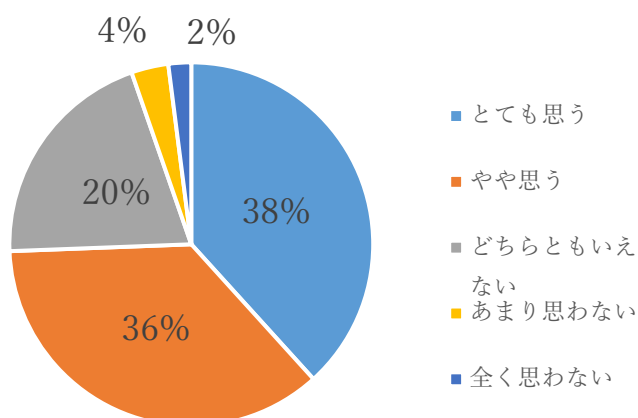
【全体】



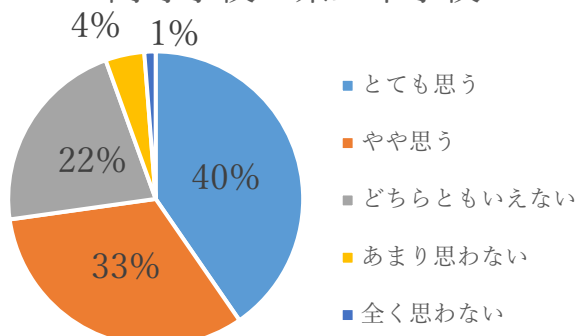
小学校・義務教育学校（前期）



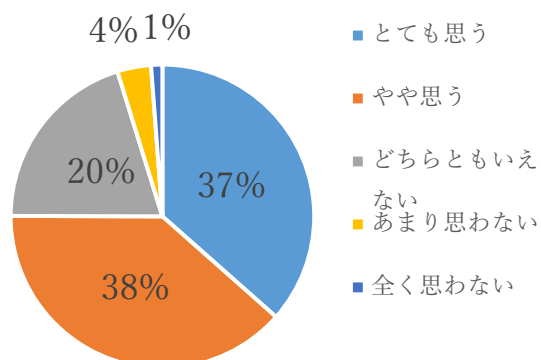
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



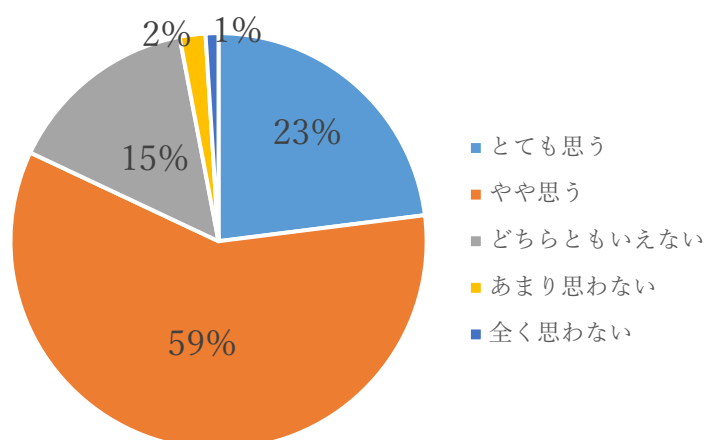
特別支援学校



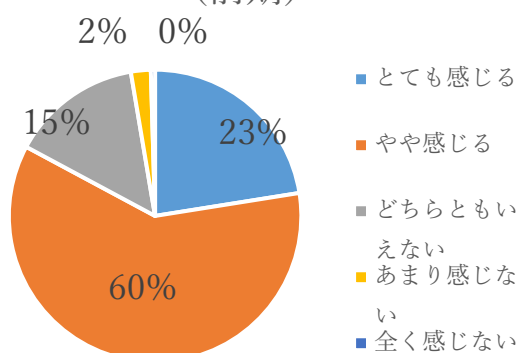
「教職員として奈良県で働き続けたいと思っているか」という質問では、全体では 75.4% の教職員が「とても思う」「やや思う」と回答している。「どちらともいえない」は 19.9% であった。一方で「あまり思わない」「全く思わない」は 4.7% であった。校種別においても同様の傾向である。

質問項目 7 継続的に学び続け、自分自身の成長を感じていますか

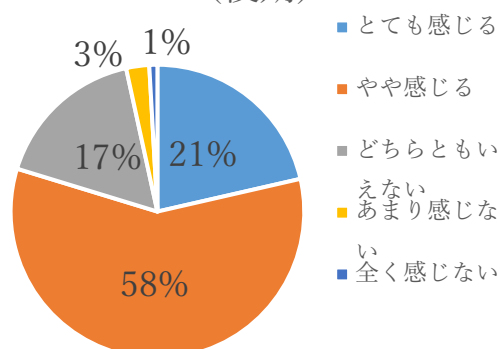
【全体】



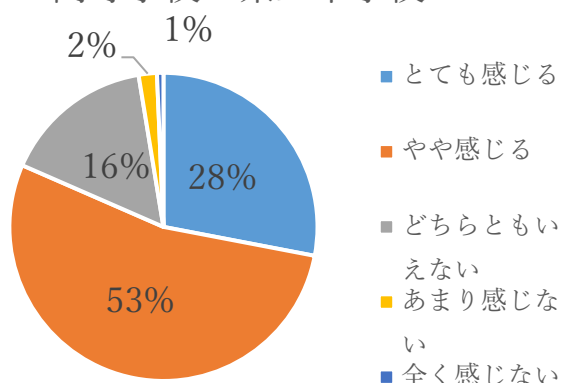
小学校・義務教育学校 (前期)



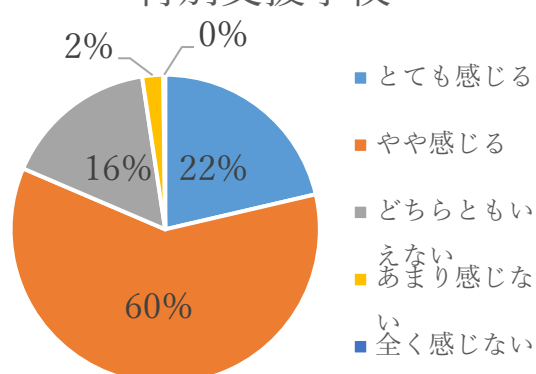
中学校・義務教育学校 (後期)



高等学校・県立中学校



特別支援学校

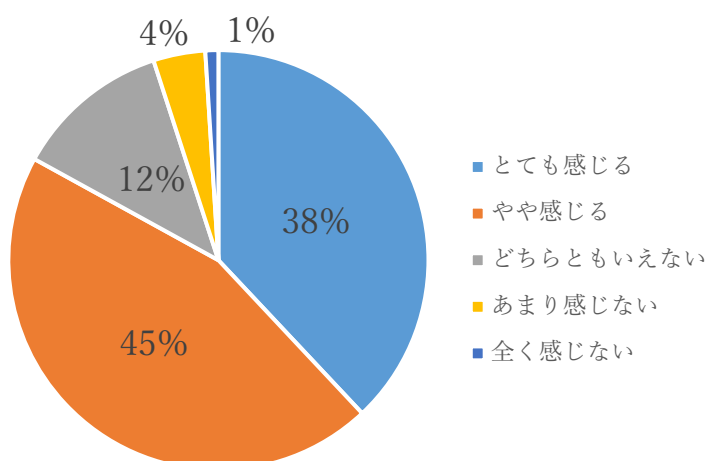


「継続的に学び続け、自分自身の成長を感じていますか」という質問では、「とても感じる」「やや感じる」と答える割合が81.9%であり、「あまり感じない」「全く感じない」割合は2.6%であった。全ての校種を通じて同様の傾向であった。

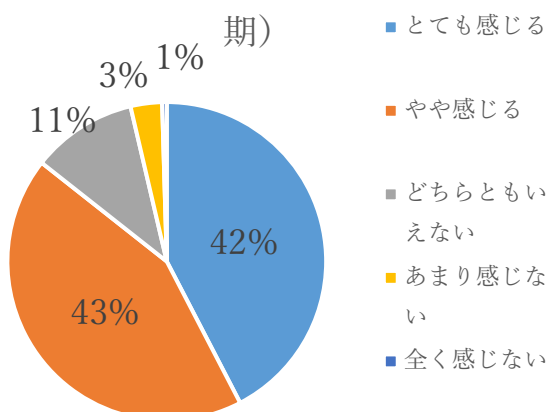
奈良県の教員が学び続け成長を感じることは比較的できていると思われる。

質問項目 8 教職員同士の協力や支え合いを感じていますか。

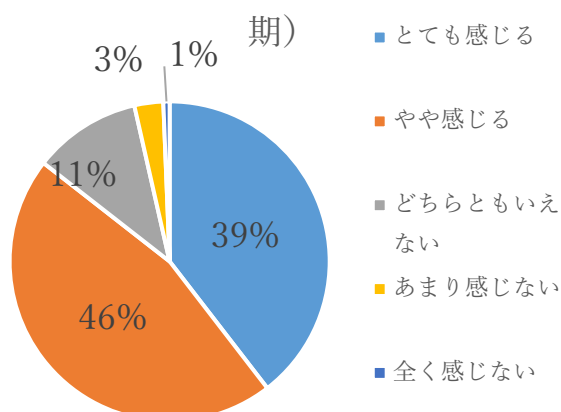
【全体】



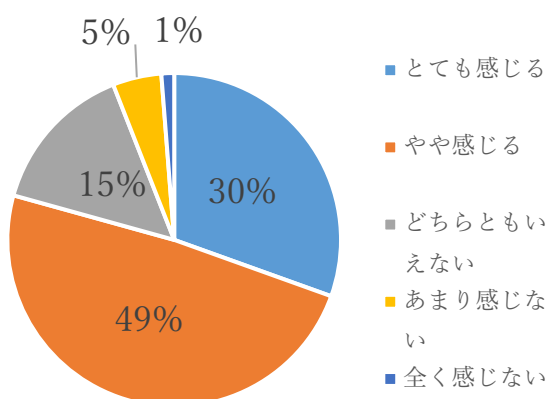
小学校・義務教育学校（前期）



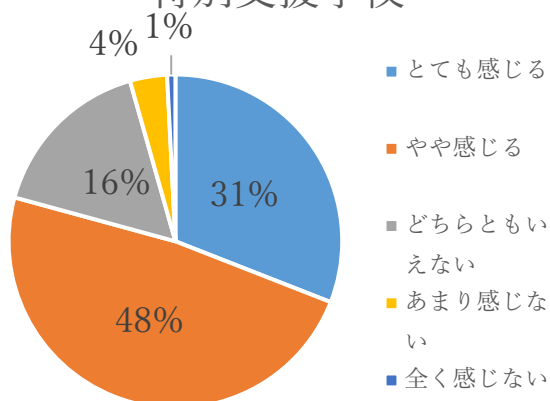
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



特別支援学校

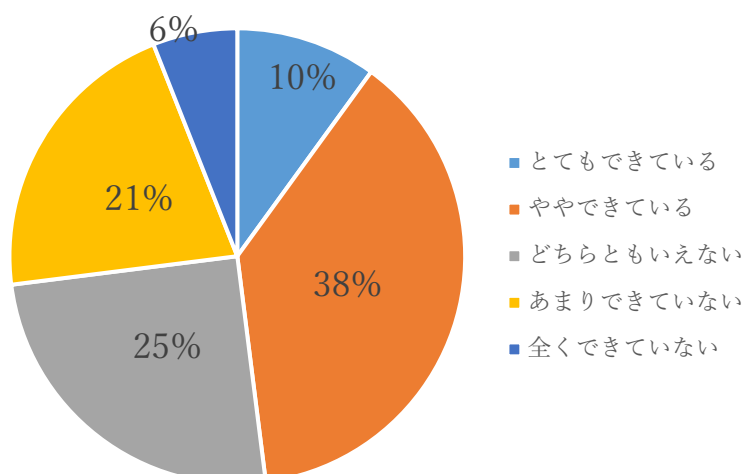


「教職員同士の協力や支え合いを感じていますか」という質問では、83.1%が「とても感じる」「やや感じる」と回答している。「あまり感じない」「全く感じない」は4.6%であった。校種別に見ると、「とても感じる」割合が小学校で42%、中学校で39%であるのに対して、高等学校・県立中学校では30%、特別支援学校で31%であり、小、中学校の教職員の方が協力や支え合いを感じているという傾向が見られる。

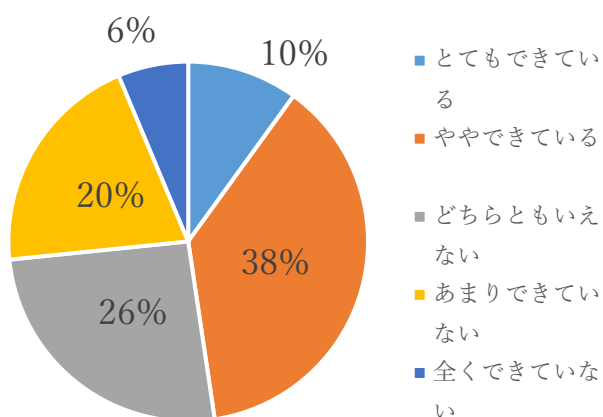
協力や支え合いが感じられない理由としては、「業務が分担されず偏っている」や「自分自身のことで精一杯で配慮ができていない」などの意見があげられている。特に、仕事の分担の不公平さを挙げている意見が多数みられる。

質問項目 9 ワークライフバランスを確立させることができますか

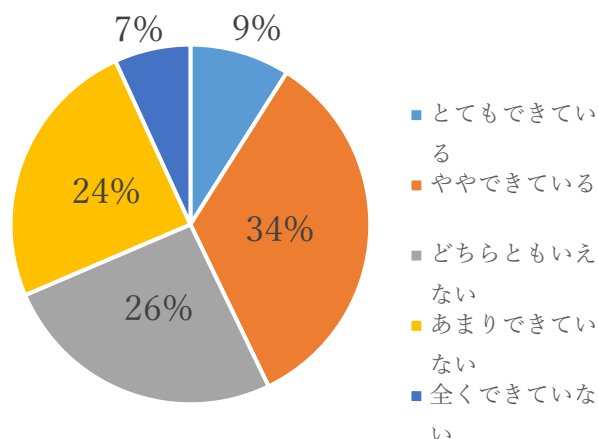
【全体】



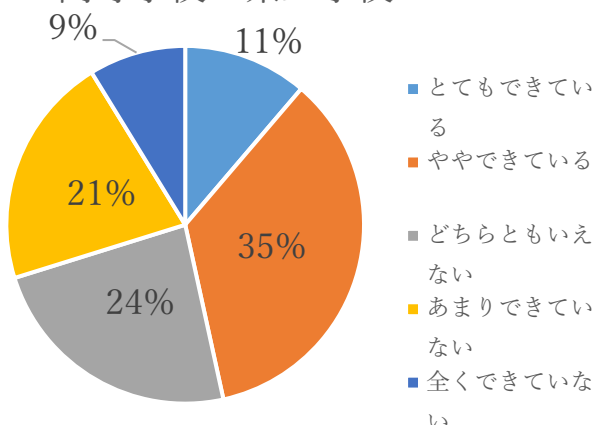
小学校・義務教育学校（前期）



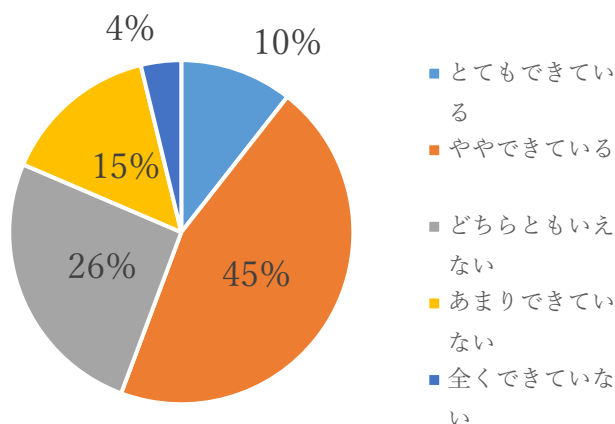
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立学校



特別支援学校

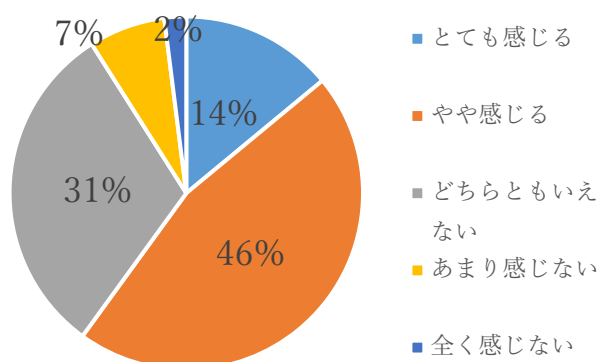


「ワークライフバランスを確立させることはできていますか」という質問では、47.5%が「とてもできている」「ややできている」と回答している。一方で27.2%が「あまりできていない」「全くできていない」と回答している。ワークライフバランスを確立できていると感じている教職員は半数以下で、校種別では、中学校で肯定的な回答が43%と最も低い。

「あまりできていない」「全くできていない」理由としては「仕事量が多い」「勤務時間が長い」「部活動との両立が難しい」「持ち帰りの仕事をしている」などの理由が多くあげられている。

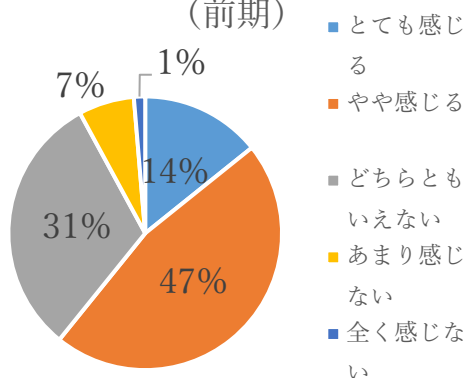
質問項目 10 自分の仕事は適切に評価され、尊重されていると感じていますか

【全体】

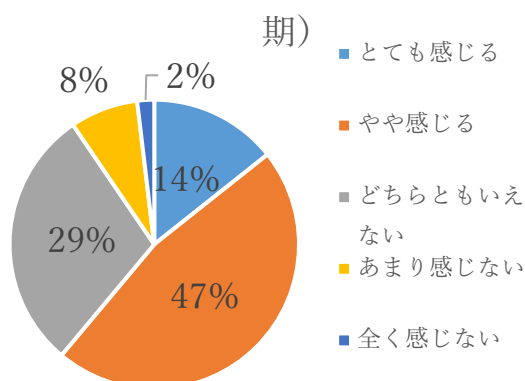


小学校・義務教育学校

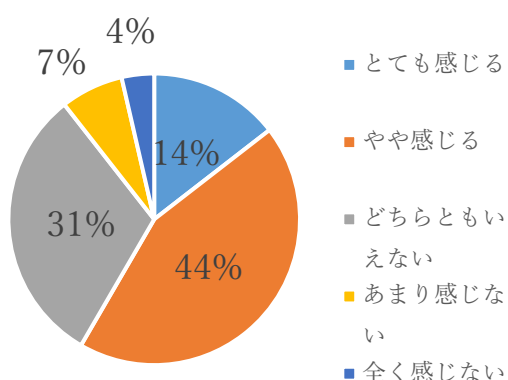
(前期)



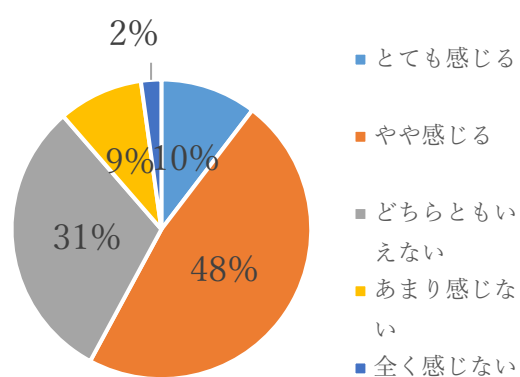
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



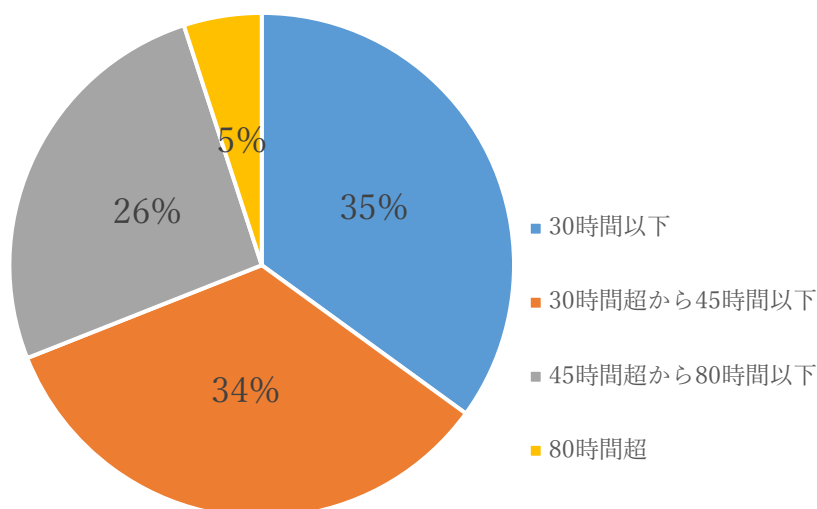
特別支援学校



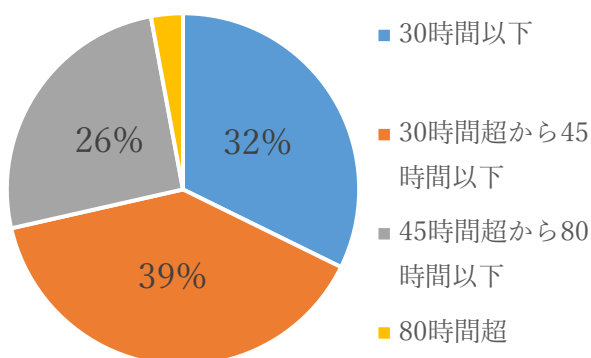
「自分の仕事は適切に評価され、尊重されていると感じていますか」という質問では、59.9%が「とても感じる」「やや感じる」と回答。7%が「あまり感じない」2%が「全く感じない」と回答している。

質問項目 1 2 月あたりの平均的な時間外在校等時間は何時間ですか

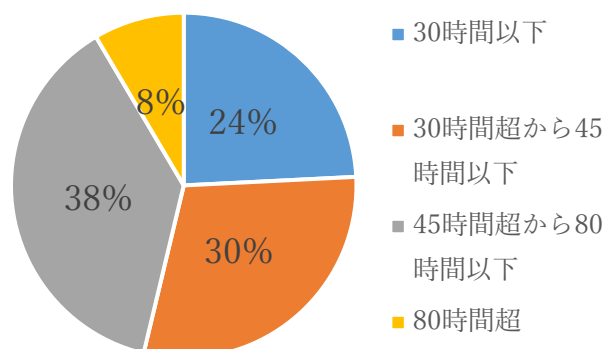
【全体】



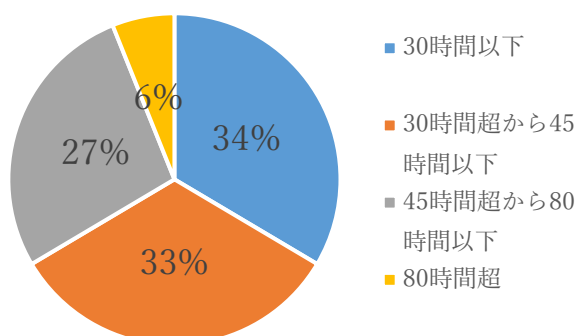
小学校・義務教育学校（前期）



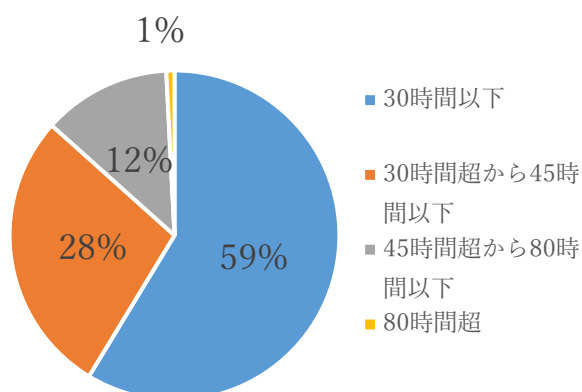
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



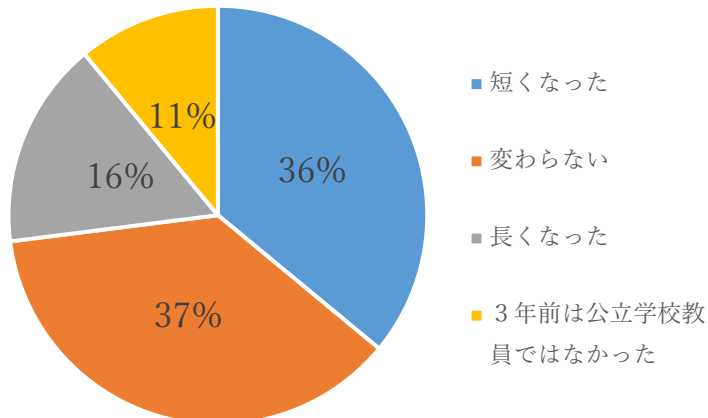
特別支援学校



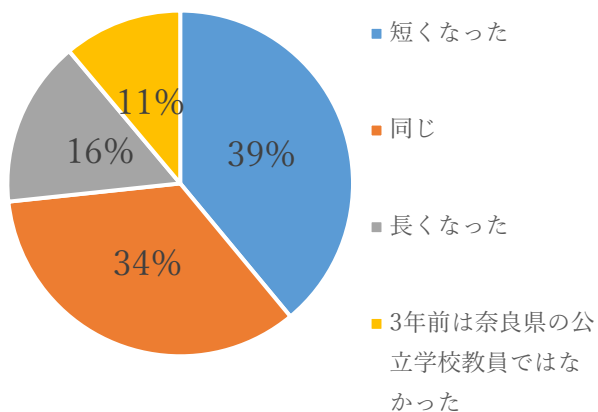
「月あたりの平均的な時間外在校等時間は何時間ですか」という質問では、30時間以下34.7%、30時間超から45時間以下34.5%、45時間超から80時間以下26.2%、80時間超4.6%となっている。文部科学省の指針で100%が目標とされている45時間以下の教職員の割合は、全体では、69.2%、校種別では、小学校が71%、中学校が54%、高等学校・県立中学校は67%、特別支援学校は87%であった。

質問項目 1 3 令和4年度（3年前）と比べて時間外在校等時間は短くなりましたか

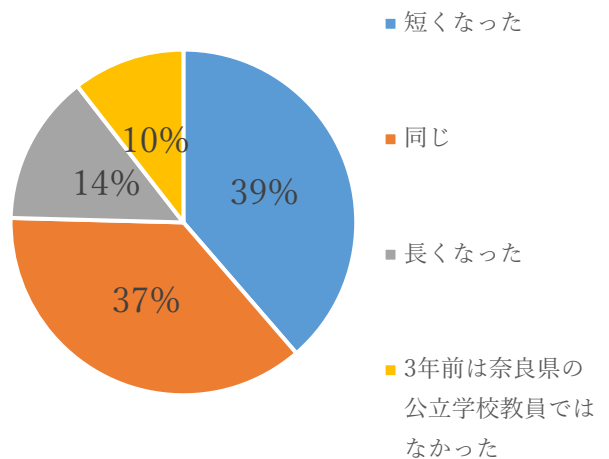
【全体】



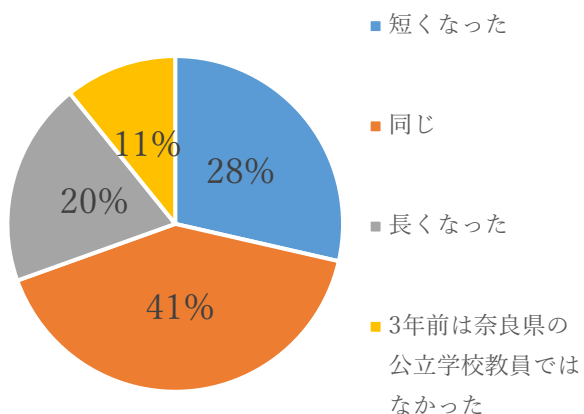
小学校・義務教育学校（前期）



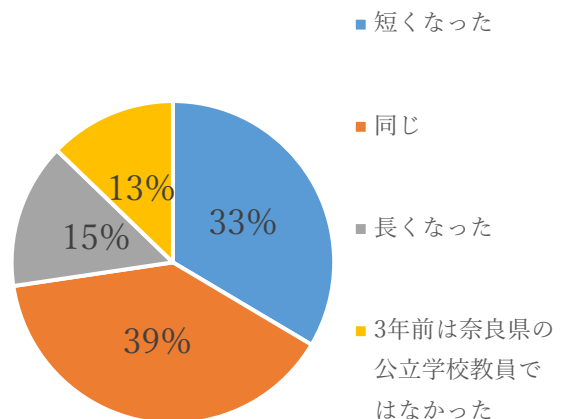
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



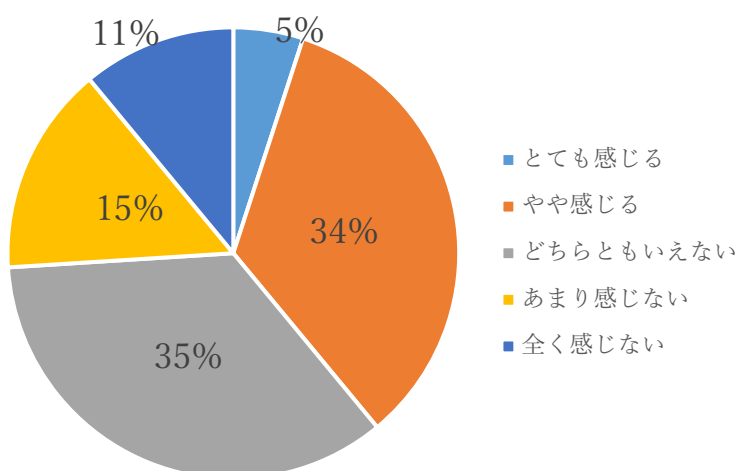
特別支援学校



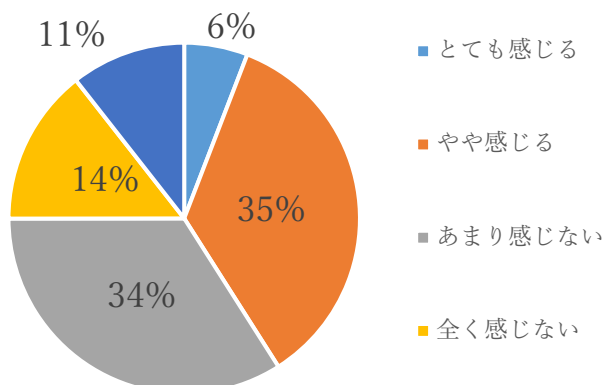
「令和4年度（3年前）と比べて時間外在校等時間は短くなりましたか」という質問では、36.2%が「短くなった」、37%が「同じ」、15.8%が「長くなった」と回答している。同じもしくは長くなったと回答している割合を合計すると、52.8%であり、教職員の半数以上が時間外在校等時間の減少を実感できていないという結果となった。この傾向は高等学校・県立中学校でより顕著で、同じもしくは長くなったと回答している割合は61%である。

質問項 2 6 令和4年度（3年前）と比べて学校における働き方改革が進んでいると感じますか

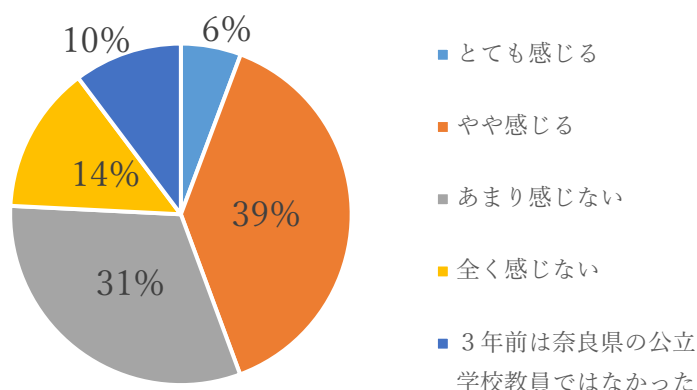
【全体】



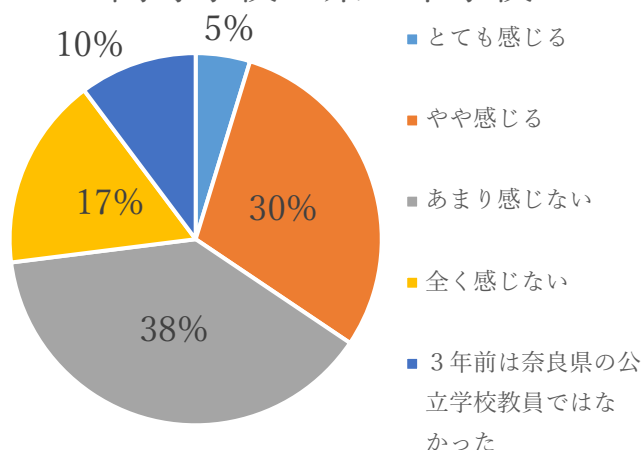
小学校・義務教育学校（前期）



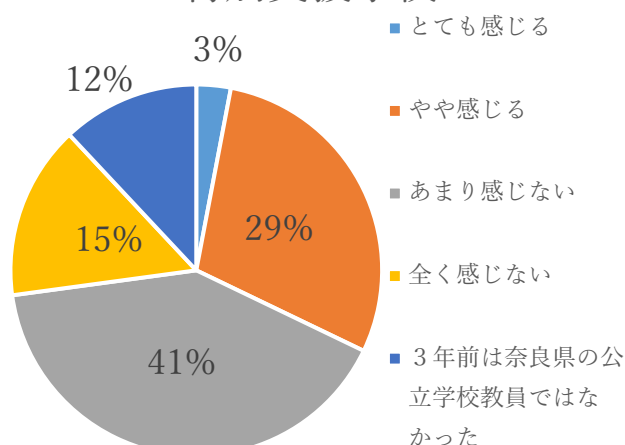
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



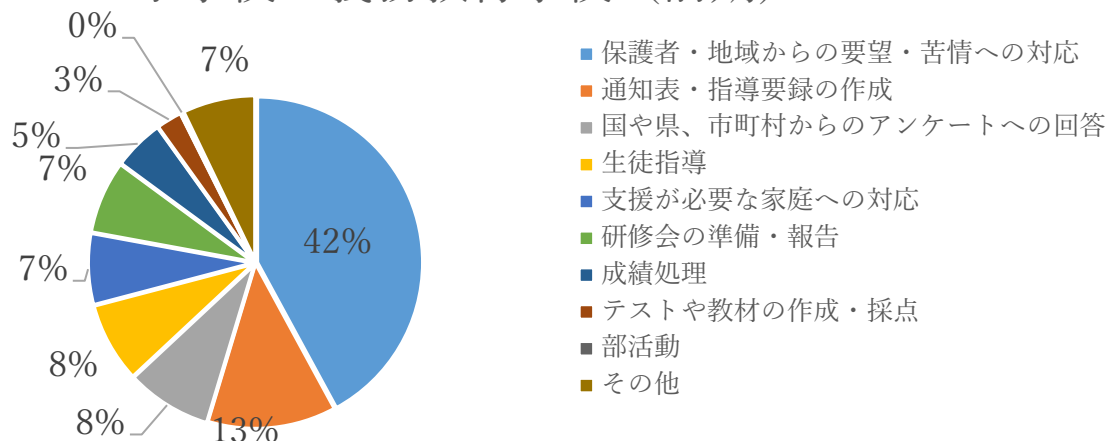
特別支援学校



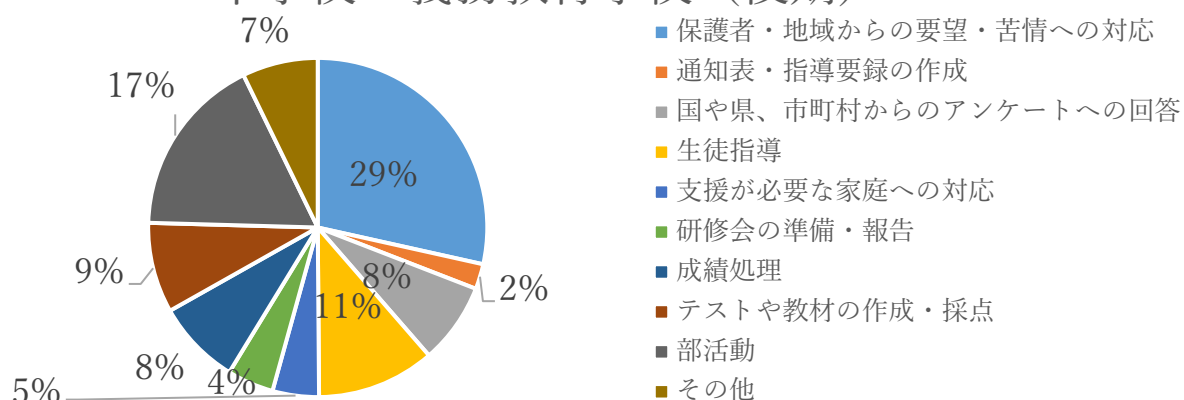
「令和4年度（3年前）と比べて学校の働き方改革は進んでいると思いますか」という質問では、「とても感じる」、「やや感じる」と肯定的に回答している割合は39.4%であるのに対して、「あまり感じない」、「全く感じない」と否定的に回答している割合は50%であった。特に、高等学校・県立中学校と特別支援学校では、否定的な回答の割合は55%、56%と半数以上であり県立学校での学校における働き方改革の実感が持てていない教職員が多いという傾向がある。

質問項目 3 0 業務の中で最も負担感の強い業務は何ですか

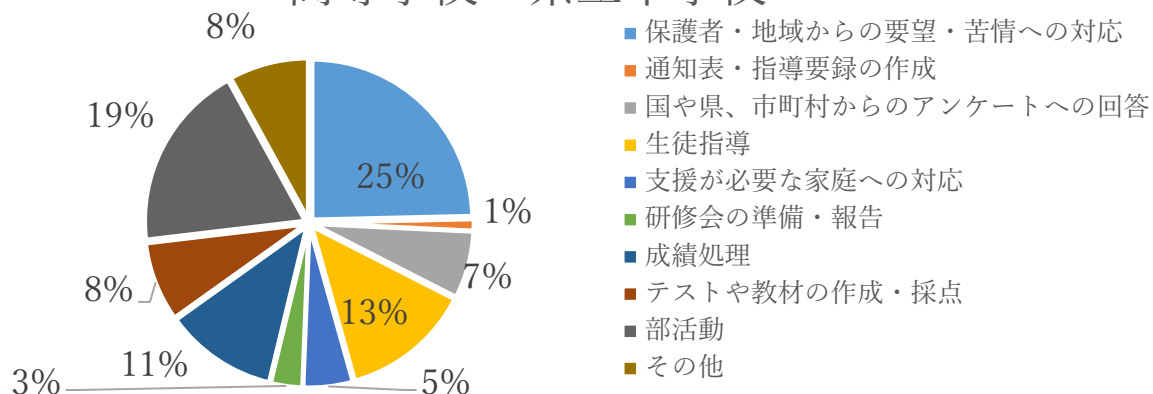
小学校・義務教育学校（前期）



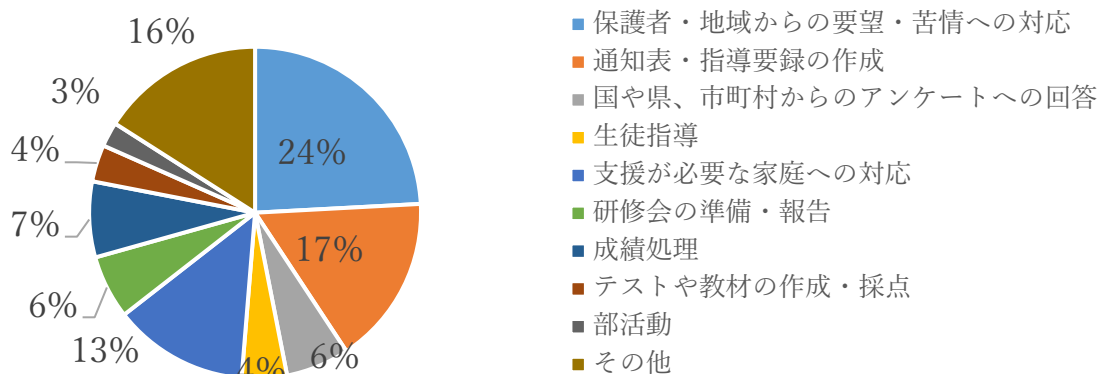
中学校・義務教育学校（後期）



高等学校・県立中学校



特別支援学校

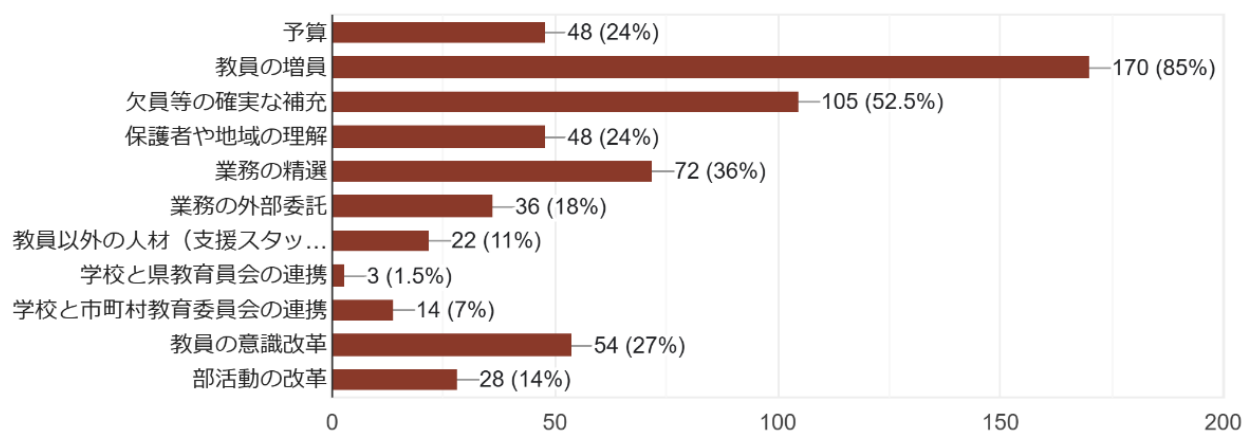


業務の中で一番負担感いずれの校種においても「保護者・地域からの要望・苦情への対応」があげられている。一方「通知表・指導要録の作成」では、高等学校・県立中学校 1%、中学校 2%であるのに対して、特別支援学校では 17%となっている。また、「生徒指導」では、小学校（8%）、特別支援学校（4%）に対して、中学校（11%）、高等学校・県立学校（13%）で高い割合となっている。「部活動」では、中学校（17%）、高等学校・県立中学校（19%）の教職員が負担感を感じている。「その他」として、「パソコンを使った業務や研修」、「校務分掌」、「行事の準備」、「会計事務」「欠員への対応」などがあげられている。

（学校用アンケート）

質問項目 35 学校における働き方改革を更に進めていくためには、何が必要であると思いますか（上位 3 つを選択）

200 件の回答



「学校における働き方改革を更に進めて行くためには、何が必要であると思いますか」という質問に対しては、85%の学校が「教員の増員」をあげている。続いて「欠員等の確実な補充」（52.5%）、「業務の精選」（36%）「教員の意識改革」（27%）などの項目があげられている。